

伊東市立八幡野小学校 ジオ学習 ～伊東の大地 大室山と城ヶ崎海岸～

(文責 伊東市立八幡野小学校 田中 翔太郎)

伊豆半島ジオパーク推進協議会の協力のもと、伊東市立八幡野小学校は9月3日(木)に出前授業、9月11日(金)にフィールドワークを実施しました。

「伊東ってすごいところなんだね」「伊東の魅力って、ほとんど大室山の噴火のおかげじゃん」など子どもたちが驚き、感嘆する声が聞こえてきました。大室山は、子どもたちにとってなじみの深い存在です。しかし、そんな大室山が4,000年前に噴火し溶岩が流出したことで、伊豆高原の地を平らでなだらかな土地へと変えてくれたことは意外と知りませんでした。大室山の山頂から平らに広がる大地を眺めて、「噴火がなかったら、ここも全部ごつごつしていて私たちも住めなかったかも知れないの!？」や「あんなに遠くまで溶岩が流れたっていうこと!？」と、子どもたちは驚きの声をあげていました。また、城ヶ崎海岸を見学することで、伊東の大地が溶岩で形成されていることを実感しました。波の力で海岸沿いが削られたあとを目の当たりにし、自然の力を思い知るとともに、理科で学習した浸食について実感を伴って理解していました。

これらのジオ学習を通して、子どもたちは地元を見つめ直し、さらにふるさとへの愛を深めることができるのだと思います。



火山実験(砂噴火スコリア丘)の様子



フィールドワークの様子(城ヶ崎海岸)

伊豆の国市 公民館講座 ～伊豆半島ジオパークの自然と文化を学ぶ～

(文責 伊豆の国市生涯学習課 土方)

伊豆半島ジオパーク推進協議会の協力のもと、伊豆の国市生涯学習課は8月30日(日)、伊豆の国市あやめ会館で公民館講座「あなたもジオパーク大使に!」を開催しました。今回は中学生から70代と幅広い世代の方、計16名が参加いたしました。今回は、講義・実験・ワークショップと3部構成で行いました。推進協議会の新名研究員による伊豆半島の成り立ちとジオパークについての講義後、メントスコーラ噴火実験では、泡と噴火の関係性の検証やスコリアのでき方を学び、水槽噴火実験では、空高く舞い上がる火山灰と火砕流の模擬を体験しました。また、ワークショップでは弁当パック模型作りを実施し、大室山周辺を題材としてでこぼこした火山地形を学びました。最

後に韮山反射炉と伊豆の国市の名産品「いちご」をとおしてジオとの関係性を学びました。この講座をとおして今まで知らなかった伊豆半島の地形や自然の成り立ちを改めて認識・確認・知識として私たちの記憶に蓄積されたと思います。

また、新しい発見もあり伊豆半島のすばらしさを再認識できた講座だと思いました。



講義の様子



火山実験（コーラ噴火）の様子

伊豆半島ジオパーク日本事前審査

～ユネスコ世界ジオパーク再認定に向けて～

伊豆半島ジオパークは、2018年にユネスコ世界ジオパークに認定され、4年に一度、ユネスコの再認定審査を受けることになっております。その再認定審査を翌年に控え、日本ジオパーク委員会（JGC）による、日本事前確認審査が8月18日（火）から8月21日（金）までの4日間の日程で

行われました。今年から文化サイトに追加された韮山反射炉や石廊崎オーシャンパーク、堂ヶ島などのジオサイトを視察しました。教育部会員である松崎高等学校 富川 教諭からジオ学習の取組みについて報告いただきました。審査員からは、「学校でのジオ学習の取組みは市町ごとにばらつきがあるため、どの市町でも一定レベルになるように横展開したい」「学校だけでなく社会教育分野でも展開したらいい」などの助言をいただきました。



ジオ学習の取組みについての報告

《編集後記》

新型コロナウイルスの影響で学校行事の縮小や中止など相次いでいるなか、ジオ学習を実施してくださる学校もあり大変うれしく思います。また、修善寺中学校2年生は、8月31日まで実施していました「ジオ検定3級」を受検してくださいました。ありがとうございました。生徒さんから「伊豆半島は自然豊かで素晴らしい場所だと改めて感じた。」「自分の地域について知っているつもりでいた。伊豆半島のことを全然知らなかった。」など感想をいただきました。

季節の変わり目ですので十分お体にはお気をつけください。

(事務局 早川)